

多様な福祉的課題に対する一次産業×福祉による支援 —岩手県釜石市の林福連携生き甲斐就労支援事業を対象に—

社会福祉学科 コミュニティ福祉系 熊谷颯真

近年、生活困窮や社会的孤立など、既存の制度では十分に対応しきれない「制度の狭間」にある人々への支援が課題となっている。そこで本研究は、岩手県釜石市で実施されている林福連携生き甲斐就労支援事業を対象に、一次産業と福祉との連携が、多様な福祉的課題への支援としてどのように機能しているのかを明らかにすることを目的とした。

具体的には、参与観察および聞き取り調査を通じて対象事業を分析し、シンボリック相互作用論の視点から検討を行った。その結果、本事業には障がい者に限らず生活困窮者や孤立者など多様な参加者が含まれており、薪づくりという仕事を媒介として相互作用が生まれ、参加者は「被支援者」ではなく「仕事の担い手」として役割を担っていることが確認された。また、作業の達成や提案の採用、報酬の獲得などの経験が自己効力感を形成し、その蓄積が自己肯定感の回復へつながる可能性が示唆された。さらに、中間支援団体を媒介として役割・意味づけ・評価が循環する構造が形成されていることが明らかとなった。

本事例は、福祉を強調しないビジネス型の包摂の実践として、地域資源を活用した新たな社会的支援モデルの可能性を示すものである。